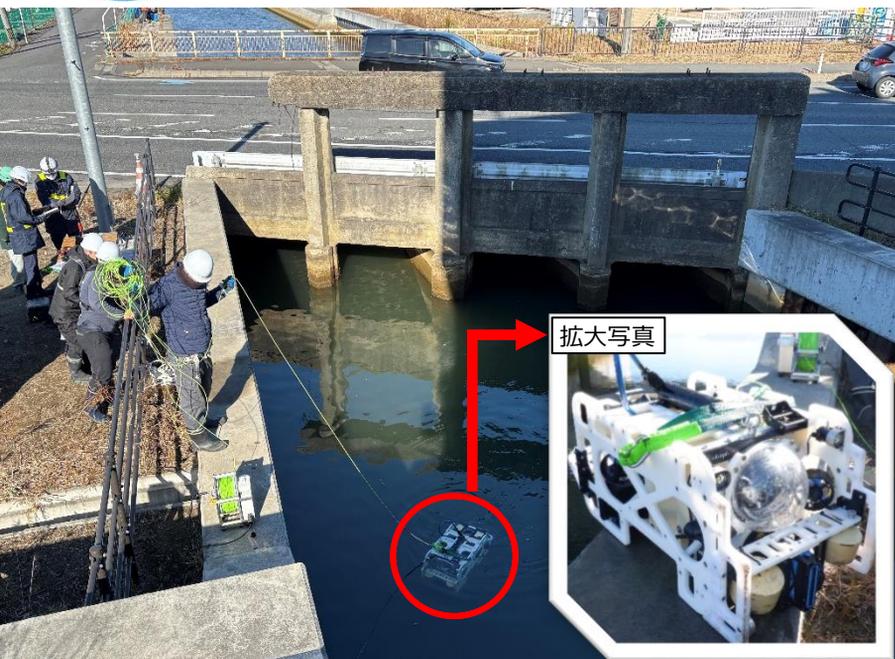




～ 水中ドローンを活用した橋梁点検 ～



拡大写真



左の写真は水中ドローンを活用して、橋梁点検をしている状況写真です。水中ドローンは、主に海や川の中に設置している橋台や橋脚を点検するのに用います。

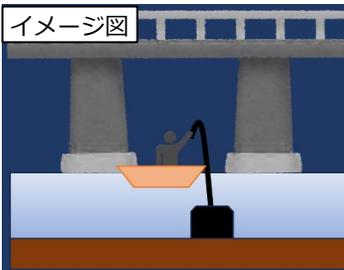
今回の点検では、橋脚基礎の洗堀状況を確認しました。(川の流れにより基礎周りの土が洗い流されていないか確認) 点検の結果、目立った洗堀は確認されませんでした。

従来の点検方法と水中ドローンを活用した点検ではどのような違いがあるか説明します。

従来の点検

- ・ボートからポールや手用測鉛で確認。
- フーチング（基礎）が河床かの判断が難しい。
- 各ポイントでの確認となるため、全体の洗堀形状の把握が難しい。
- 目視点検ができない。

※手用測鉛（しゅようそくえん）
先端におもりがついたロープを水中に落とし、深さや底質を図ること



下の写真が
手用測鉛です！

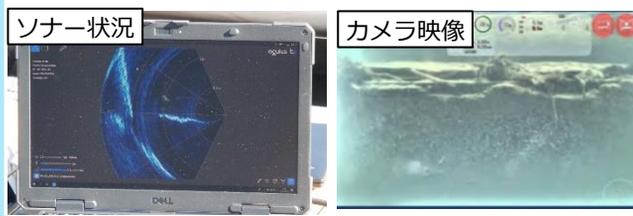


水中ドローンを活用した点検

- ・ソナー（音波）やカメラを活用して洗堀状況の確認。
- ソナーを活用することで従来の点検よりも高い精度で確認ができる。
- ソナーで洗堀箇所が発見された場合は、カメラを使用して目視点検を行える。

【水中ドローンのメリット】

- ①従来の点検に比べ、リアルタイムで正確な状況を把握することができる。
- ②短時間で広範囲を調査できるため、作業の効率化が図れる。



気仙沼国道維持出張所では登米市境～岩手県境の約64.3kmの国道45号を管理しています。
道路上の落下物等を見つけたましたら、下記の連絡先までご連絡お願いいたします。